

石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会について

【第2回 石巻市南浜地区復興祈念公園有識者委員会 資料】

平成28年3月9日

開催概要

■協議会の目的

公園の利活用を踏まえた公園整備や管理運営体制について検討する

■協議会の構成員

公募（個人及び団体からの推薦者）及び事務局・協議会からの推薦者

個人参加	13人
団体から推薦	9人
事務局・協議会推薦	3人
合計	25人

※団体名「一般社団法人石巻青年会議所」「NPO法人 MAKE THE HEAVEN」
「がんばろう！石巻の会」「公益社団法人みらいサポート石巻」
「子どものための石巻市民会議」「特定非営利活動法人いしのまき環境ネット」
「蓮の会」「東日本大震災圏域創生 NPO センター「いしのまき寺子屋」」
「南浜町四丁目町内会」

(アドバイザー) ※石巻市南浜地区復興祈念公園空間デザイン検討委員会 委員

阿部 聡史 環境デザイナー

渡部 桂 東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科 准教授

■協議会の開催概要

第1回協議会 平成27年10月17日(土)

○開催場所 石巻市役所4階庁議室

○協議の流れ

1. 計画検討協議会設置の目的、スケジュール等の説明
2. 委嘱状の交付
3. 会長、副会長の選出
4. 南浜地区復興祈念公園基本計画、空間デザインの検討状況についての説明
5. 参加者から自己紹介、応募動機の発表
6. グループ討議（公園のあり方について）

第2回協議会 平成27年11月28日(土)

○開催場所 石巻市役所4階庁議室

○協議の流れ

1. 第1回協議会の振り返り
2. 空間デザイン検討委員会の検討状況
3. 勉強会開催報告
4. グループ討議（活動内容から見た、土地利用や施設のあり方について）

第3回協議会 平成28年1月24日(日)

○開催場所 石巻市役所4階庁議室

○協議の流れ

1. 第2回協議会の振り返り
2. グループ討議（実施したい具体的な活動と土地利用や施設のあり方、公園に望むことについて）

第4回協議会 平成28年3月5日(土)

○開催場所 石巻中央公民館第1講座室

○協議の流れ

1. 協議会意見と、第6回空間デザイン検討委員会への反映事項
2. 来年度の協議会の進め方

- ・第1回～第3回の協議会では、3つのグループに分かれて討議を行った。
- ・討議の機会を増やすため、第3回・第4回協議会の前に、グループ毎に部会を開催した。



石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会からの提案とプランへの反映状況

番号	やりたいこと	そのために望む場所、施設	反映状況	
1	市民活動			
1-1	○市民活動を通じて公園に関わりたい	○市民の活動の拠点施設が複数あるとよい	市民の活動拠点として、2箇所 ^{おごそ} の市民活動空間を設定。活動をサポートする小屋などの設置を、実施設計段階で検討。	
		○市の区画に交流広場を設け、多目的の活動がしたい		
		○北西風が強いため、市民活動空間を国の施設に近付けたい	バックヤード的な役割も備えると想定されるため、 ^{おごそ} 厳かな祈り、伝承が主体の国エリアからは一線を画す配置を検討。	
1-2	○震災学習、伝承活動を行いたい	○震災学習後のふり返りができるスペース、関係者の控室、シアターコーナーがあるとよい	屋内での活動について、国のエリアに設定する中核的建築施設の活用を、実施設計段階で検討。	
	○震災学習、伝承活動に避難築山を組み込みたい	○築山の役割を来訪者に説明できるデザインにしてほしい ○築山からの避難経路や避難体験するルートを設定してほしい	一時避難後に日和山に避難がしやすいように、築山のピークを可能な限り日和山に近づけ、日和山に向かって尾根を伸ばす形状に設定。 新門脇地区の避難動線に向かうことを基本として園路を設定。	
1-3	○音楽イベントを開催したい	○ステージや電源装置があったらよい ○ステージにかわる小高い場所があるとよい	多目的広場や日常利用広場など、行事の開催が可能な空間を設定。 具体的な設備や行事の開催にあたってのルールなどを、実施設計段階で検討。	
1-4	○アートイベントを開催したい	○制作や展示のスペースがほしい		
1-5	○追悼の行事を開催したい	○灯ろうを作る3.11の活動を継続したい。		
1-6	○数万人規模の大規模イベントを開催したい	○収容人数に対応するオープンスペースがほしい		
1-7	○植樹活動を行いたい	○市民ボランティアが関われる場所として植樹育成活動するスペースがほしい		活動エリアと植栽に関わるルールを設定し、参画していただく予定。 具体的な活動のあり方を検討中。
	○海浜植生を再生したい	○2030年、2040年・・・と100年後まで段階的に緑化の目標が見えるようにしたらよい		
1-8	○市民活動を他団体と連携しながら進めたい	○石巻全体としての震災伝承にどう取り組むかという視点で、活動団体が協議する場を設けてほしい	公園内での各種団体の活動のあり方について、今後検討。	
番号	公園に求めること	そのために望むこと、施設		
2	市区域の活用			
2-1	○子供たちにのびのびと遊ばせたい	○多目的に自由に使える広場、快適にピクニックができる空間、プレーパーク、冒険遊びが楽しめる広場があるとよい	子ども達のがのびのび遊べる空間を、多目的広場や日常利用広場、水辺の空間などに設定。 具体的な施設内容、運用について検討中。	
		○夏の子供たちの遊び場として、プールがあるとよい	今後も震災被害を受けることもあり得ることを考慮すると、高額な費用を要する施設を整備するのは現実的ではないと判断。	
2-2	○公園に、全国から人を集めたい	○運動できる公園を整備するとよい、マラソンやツールド東北の起点にしたい	スポーツの場、スポーツイベントは、多目的広場を想定。 施設内容や整備水準は、今後検討。	

石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会からの提案とプランへの反映状況

番号	公園に求めること	そのために望むこと、施設	反映状況
3	追悼、祈り		
3-1	○国営の祈りの広場で追悼する	○祈りの広場は、全方向から祈る	国のエリアの中央付近に追悼の広場を設定。 類似の事例を参考に広場の広さを検討。 追悼の広場の具体的なデザインを、実施設計段階で検討。
		○祈りの広場は追悼鎮魂の場であり、追悼式典で予想される人数が収容できる広さにするとよい	
3-2	○公園内でそれぞれの思いで追悼する	○祈念の核となる施設はシンプルにするとよい	街の記憶をとどめる静謐な場を随所に配置し、水辺や樹林を歩きながらたどれるように園路や空間を設定。 街の記憶としてかつての街路網を残した空間を基本デザインとして設定。 ○丁目○番地を表示するサイン等の設置を検討。
		○祈りの対象としてのモニュメントはいらない⇔手を合わせる対象としてモニュメントが必要	
		○モニュメント寄付の要請が多くなり收拾がつかなくなるよう、公園の運営方針にあったもののみ受けいれとよい	
4	伝承	○花植えによる追悼活動を受け入れてほしい	新門脇地区の避難動線に向かう園路を設定し、避難築山のピークを可能な限り日和山に近づけ、日和山に向かって尾根を伸ばす形状に設定。 サインなども含めた具体的な明示方法を実施設計段階で検討。
		○県内の被災地の土を祀ってほしい	
4-1	○震災の教訓を踏まえ、日和山に避難することを最優先とし、それを習慣付け、伝承する	○水辺や緑の中で、思いにひたれる空間がほしい	今後、運営理計画を策定する際に検討。
		○一人で祈ることができる空間を用意してほしい	
4-2	○来園者に震災や教訓を伝承する	○かつての自宅に再訪できるように、街の座標を残す工夫が必要	被災後に現れた湿地や、かつての街路網を部分的に保全するエリアを設定。 国のエリアに設定する中核的施設の活用を、実施設計段階で検討。
		○日和山へ避難することに基づくデザインとする(サインによる情報発信、築山のピークをできるだけ避難先の日和山に寄せる)	
4-3	○来園者に街の記憶を伝承する	○日和山への明確な避難経路を整備してほしい	街の記憶としてかつての街路網を残した空間を基本デザインとして設定。 ○丁目○番地を表示するサイン等の設置を検討。 震災遺構のあり方、残し方について、実施設計段階でも継続して検討。 かつての行事を尊重し、再生のための条件を確認しながら、行事開催のあり方を今後検討。
		○避難路沿いを稲井石や植栽で誘導するとよい	
4-3	○来園者に街の記憶を伝承する	○避難経路として認知されるために、日和山に逃げることに對して、インパクトのある道筋にする、自動的にわかるような配置にしてほしい	かつての行事をこの地で続けたい(営みの証を残し、元住民再会の機会創出にもなる)
		○日和山へ避難することを身につけるように、本公園を避難訓練の場として活用するとよい(指定管理の条件とすることも考えられる)	
		○震災の記憶を風化させずに、市民が自分事として認識することが大事のため、防災について話し合いができる場所があったらよい。	
		○現状のままにして手をかけないエリアも残すとよい	
		○震災の記憶の伝承や、防災を学ぶための施設の整備、研究のための施設の整備、または研究のフィールドとして活用するとよい	
		○資料館を整備して津波の恐ろしさを伝える、全国の津波の事例を伝える、逃げることを徹底して周知するとよい	
		※その施設は利用者の安全や誘導、園内の情報提供をするとよい	
		※加えて、倉庫的なスペース、トイレもほしい	
		○かつての丁目番地を示すとよい	
		○建物の基礎などを震災遺構として残すとよい	
		○地中の工作物は、震災遺構としての存在と、生物の移動経路となっていることから残すとよい	

石巻市南浜地区復興祈念公園計画検討協議会からの提案とプランへの反映状況

番号	公園に求めること	そのために望むこと、施設	反映状況
4	伝承		
4-4	○住んでいた証を残したい	○この地の住民が集える広場と、町内会に在所していた住民の名前を入れた記念碑を受け入れてほしい	モニュメント等の受け入れについて、今後ルールを決めたうえで検討。
5	その他		
5-1	○来園者が公園の美しさを体感する	○順路を設け、四季折々で、自然の豊かさ、美しさを感じられる植生にするとよい	クロマツ林、アカマツ林、落葉広葉樹林、湿地、野草地、花卉類による修景地などを設定し、様々な環境を巡る園路を設定。
5-2	○公園の維持管理費を軽減する	○市民や企業の参画による維持管理を行うとよい ○公園の運営方針に沿った形での企業協賛、一般献木を検討するとよい ○管理するエリアとしないエリアを区分するとよい ○長期にわたって関わり続ける仕組みが求められる	市民や企業の参画による管理運営のあり方について、今後検討。
5-3	○持続可能な植樹活動の組織をつくる	○協議会を設けて、各種団体の活動や献木などの受け入れを調整するとよい ○公園の理念に沿った、運営組織とする必要がある	植物材料調達や育成管理等の杜づくり活動を統括し、事業者(国、県、市)と連携を図るため、協議会等を組織することを検討。
5-4	○中心的な追悼の空間と市民活動の場は明確に分ける	○アスレチックや市民農園などの市民ニーズに対応する施設を、多目的広場周辺に整備するとよい	多目的広場や周辺の整備については、施設内容や整備水準は、今後検討。
5-5	○この地で活動するにあたり、急な気象の変化にも対応できるようにしたい	○悪天候や日差しを避けて休憩できる屋根付きのある程度広い場所があるとよい	園内に配置するトイレや休憩施設の機能を、実施設計段階で検討。
5-6	○子供たちの日常的な利用を促す	○駐車場の近くに、子どもの年齢層に応じた遊び場を配置するとよい、築山の斜面を利用した遊び場も考えられる	実施設計段階で、遊び場所、施設内容について検討。
5-7	○公園整備が長期にわたることを前提とした取り組みを考える	○公園を子供に残す意識で取り組むべき、子供に関わらせること、教育の一環でやるのが大事	今後、子供たちとどう関わって整備を進めるかを検討。